

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
 ※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

<p>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p>受理No. : D-15</p>	
<p>【学校名・氏名】大和町立落合小学校・玉田芳治</p>	<p>【応募部門】 校内研修プログラム開発・実践部門</p>	
<p>【修了研修名】平成30年 第3回 副校長・教頭等研修</p>		
<p>【活動名】主タイトル「特別の教科 道徳」の推進 副タイトル 教務主任者等研修会をとおして</p>		
<p>解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？</p> <p>(1) 道徳の時間が「特別の教科 道徳」となったことは知っているが、その授業が以前と変わらぬ指導方法で行われてしまうことが懸念される。各学校において先導的な役割をする立場の職員（教務主任等）が道徳教育の充実に向けた教科化の趣旨を理解し各校の教員に広めることが、その解決の第一歩につながると考えた。</p> <p>(2) 「読み物道徳」から「考え議論する道徳」への転換が必要とされているが、指導において教師間格差が大きく見られる。そこで、複数の教員で教材について議論し、効果的な指導方法を共有するなどの協働による授業づくりが大切と考えた。</p>		
<p>目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？</p> <p>(1) 「特別の教科 道徳」を行う上でおさえておきたいことについて、多くの学校の教務主任者が集まる「管内小・中学校教務主任者等研修会」において説明し、各校での「特別の教科 道徳」に対する捉え方を共通のものとする。</p> <p>(2) 「管内小・中学校教務主任者等研修会」において、研修参加者自身が教材に向き合い、協働による授業づくりを経験することで、所属校での「特別の教科 道徳」の推進に生かせるようにする。</p>		
<p>活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。</p> <p>(1) 「特別の教科 道徳」を行う上でおさえておきたいことについて、中央研修での講義内容や教職員支援機構の校内研修シリーズを参考にプレゼンテーションを作成。道徳の教科化の経緯や本旨、道徳に係る教育課程の改善方策等について説明するとともに、各学校においてありがちな実際の授業場面等での課題も織り交ぜながら、これからの「特別の教科 道徳」の授業について講義を行った。</p>		
<p>図 1【プレゼンテーション作成】</p>	<p>図 2【考え議論する道徳へ】</p>	<p>図 3【授業の実態と課題】</p>

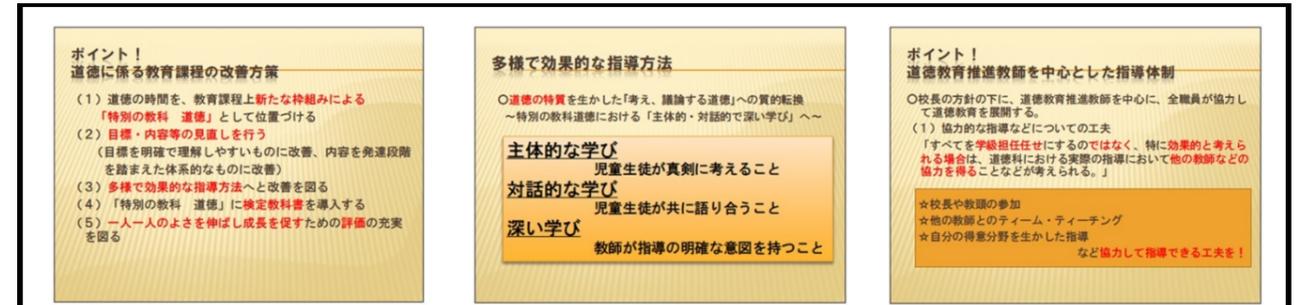


図 4【教育課程の改善方策】 図 5【多様で効果的な指導】 図 6【協力的な指導体制】

(2) 「特別の教科 道徳」における協働による授業づくりについて演習を行った。

- 中央研修講義「道徳教育のマネジメント」（大阪教育大学 藤永芳純 教授）を参考に演習内容を設定し実施した。
- 管内小・中学校教務主任者等研修会参加者およそ 100 名を中学校区ごとにグルーピングし学校種を交えて演習を行った。
- 演習内容は、教材を読み、主題名、内容項目、本時のねらい、主発問、予想される児童生徒の反応等を考えることとした。
- 内容項目については、「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表を配布し、授業を考える際に小学校、中学校の段階を意図的に意識できるようにした。

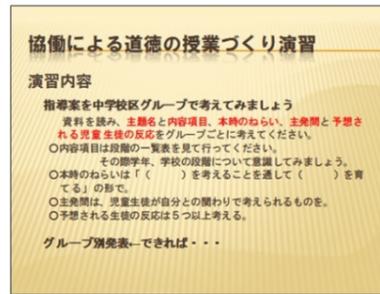


図 7【演習内容】 写真 1【中学校区でのグループ】 写真 2【演習での話し合い】

活動の成果：※それによって、どんな成果が得られましたか？

- (1) 「特別な教科 道徳」を指導する上で、どのようなことについて配慮しながら行う必要があるかを教務主任者等が理解することにより、所属校において経験の浅い教員や従前の指導を続けている授業者へ指導、助言する際に生かすことができる。
- (2) 複数の研修参加者がグループとなり授業づくりの演習を実施したことで、「特別の教科 道徳」における授業づくりについて、課題意識をもった活発な意見交換のもとに進めることができた。また、協働による授業づくりの在り方や良さ、効果について体感することができた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- (1) はじめに理論研修、その後に授業づくり演習を行うことで、研修参加者全員が「特別の教科 道徳」に対し、同じ理解、方向性のもとで研修に取り組むことができる。
- (2) 小学校、中学校の異校種の教員がグループとなり研修を進めることは、互いの校種の児童生徒の発達段階について理解するきっかけになるとともに、小学校から中学校への接続についても考えることができる。